

都市再生整備計画

あわらおんせんえきにぎ こうりゆうちく
JR芦原温泉駅賑わい交流地区

ふくい
福井県 あわら市

令和3年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)~②

都道府県名	福井県	市町村名	あわら市	地区名	JR芦原温泉駅賑わい交流地区	面積	30.3	ha
計画期間	令和	1	年度	～	令和	5	年度	
交付期間	令和	1	年度	～	令和	5	年度	

目標

- 大目標 北陸新幹線芦原温泉駅の現駅併設を見据え、定住環境の向上を図りながら、市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして駅周辺にさらなる賑わいを創出する。
- 目標1 交通結節点、魅力情報発信の機能強化
- 目標2 安心で安全な人ややさしい街・道路の整備
- 目標3 地域内のコミュニティ活動の促進

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 本市は、JR芦原温泉駅西側に発達した市街地、えちぜん鉄道あわら湯のまち駅北側に発達した温泉街を基本に、土地区画整理事業等による計画的な整備・開発によって発展してきた。現在は、大規模な開発、市街地拡大は沈静化し、市街地内の定住化が進んでおり、特に基盤整備済地区での人口増加が顕著となっている。さらに居住者の高齢化が顕著であるため高齢者の増加や高齢者の行動特性に配慮した将来の市街地構造を検討する必要がある。このため、居住機能と生活を支える都市サービス機能(公共施設や生活利便施設)が集積する、暮らしやすいコンパクトなまちづくりを進める。
 公的不動産の活用策として、「あわら市公共施設等総合管理計画」に基づき、利用状況(稼働率等)の低い施設や継続使用しない建物等については、他施設との複合化や統合化等を含め、不動産の有効活用について検討していく。特に、都市機能誘導区域内で発生する公的不動産については、都市機能が拡散しないよう、関係機関や団体、民間との連携・調整を図りながら、誘導施設の立地誘導を行う。

まちづくりの経緯及び現状

あわら市は福井県の最北端に位置し、平成16年3月に芦原温泉を有する芦原町とJR芦原温泉駅がある金津町の2町合併により誕生した。
 本地区の中心に位置する芦原温泉駅が、平成17年度から整備新幹線建設推進高度化等事業による駅周辺調査の対象となったことを受け、駅周辺整備基本計画に基づき事業を着手している。事業化にあたっては、全体の事業費が多額になることや事業期間が長期に渡るなど、また、当駅が在来線の駅に併設されることなどを考慮し、平成19年度から平成30年度までの12年間に渡り、「JR芦原温泉駅周辺地区(1期)」、「JR芦原温泉駅周辺地区(2期)」及び「JR芦原温泉駅周辺地区(3期)」の都市再生整備計画を策定し、金津本陣にぎわい広場や駅東口駐車場の整備を行った。
 また、市民が主体となった美しい景観形成による魅力ある空間づくりを目指して、講演会やワークショップ、市民と行政による花と緑の実践活動等を通して、市民の自立した意識づくりとまちづくりの担い手の育成を図った。特に、公園整備においては、計画段階から市民参加のワークショップにより公園整備の基本方針を作成することで、公園を地域の活動拠点としてコミュニケーションの輪を広げることができた。
 さらに、平成28年度には駅周辺まちづくりの将来像(将来デザイン)を市民投票により決定し、将来デザインに込められた理念を踏まえ、駅周辺の機能や仕組みを定める「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」を平成30年7月に策定した。
 今後は、このプランに基づき、交通結節点、魅力情報発信のさらなる機能強化や駅周辺を中心とした賑わい創出を図るため、北陸新幹線現駅併設に対応した整備を行う。また、福井県の北の玄関口としての景観やイメージ、さらには交通環境の改善に取り組むとともに、中心市街地の定住環境を向上させるため、人にやさしく景観に配慮した道路整備を進めることで、安心で安全な暮らしが享受でき、市民と来訪者が駅周辺が賑わうよう、これまでの事業で高めた地域の魅力や市民のまちづくりに対する意識をさらに向上させ、持続可能な賑わいと市民の交流を創出する。

課題

- これまで事業における道路改良、広場整備など、地域の定住環境が向上することで、市内の人口減少が進む中、駅周辺部において人口が増加している区域もあるため、さらなる定住環境の向上を図る必要がある。
- 駅周辺部において整備した西口アクセス道路は、整備区画に限られていることから、鉄道利用者の減少に歯止めがかからない状況であるため、アクセス道路の早期完成による利便性向上が必要である。
- 新幹線開業により、芦原温泉駅が首都圏方面につながる県内では一番近い駅となることから、市内のみならず坂井市、福井市北部、永平寺町、勝山市等の周辺地区からの利用者の増加が見込まれる。また、駅周辺のさらなる賑わい創出を図るため、現状以上の駐車台数の確保が必要である。
- 駅周辺部では、空き店舗が増え活力が低下していることや、街なかで観光する場所も少ないことから、駅から街なかへの人の移動が見られないため、歩きたくなる街の整備が必要である。
- 住民参加型のワークショップ等を開催したことで、市民のまちづくりに対する意識の高揚が見られるが、対象の枠を広げさらに継続するためには今しばらく行政の支援が必要と思われる。

将来ビジョン(中長期)

- ①第2次あわら市総合振興計画(平成28年3月策定)
 - まちづくりの基本理念、暮らしやすく 幸せを実感できるまち
 - 幸せを実現するための6つのプラン：①新幹線を迎える、②まちを輝かせる、③人をはぐくむ、④安らぎを守る、⑤力をみなぎらせる、⑥夢をつなぐ
 - 基本政策の一つに「北陸新幹線に向けたまちづくり」を掲げ、北陸新幹線の整備促進、芦原温泉駅周辺の整備、並行在来線への対応を重点的に取り組むと位置付けている。
- ②あわら市都市計画マスタープラン(平成29年3月策定)
 - 都市の将来像：多彩な自然と温泉情緒が誘いざなう生活感動都市
 - まちづくりの基本戦略の一つに「福井県の北の玄関口にふさわしいJR芦原温泉駅周辺のまちづくり」を掲げ、特色ある美しい景観形成と新たな機能の導入により、活力と魅力あふれる空間を創出すると位置付けている。
- ③あわら市立地適正化計画(平成29年3月策定)
 - 都市の将来像：都市計画マスタープランと同様
 - 本地区(広域交流拠点)の誘導方針
 - ・都市機能：関連計画やプロジェクトとの整合、拠点中心部へのアクセシビリティや回遊性、都市機能の集積状況を勘案して、高齢化社会に対応した市街地環境を整備するため、必要な都市機能を維持・誘導する。
 - ・居住：用途地域内への誘導を基本とし、新規や住み替えの促進、路線バス、デマンド交通の維持・拡充、空き家の有効活用等を図る。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

- ・中心市街地は、鉄道駅や交通広場といった公共交通の結節機能、衰退しているものの商店街を中心とした経済機能、図書館、高校等の公共公益機能をもとより持っているが、新幹線開業を機に市民が愛着と誇りをもてる観光交流機を高め、交流人口の増加を図る。
- ・既存市街地外縁部については、本市全体で見られる人口減少、高齢化の傾向が顕著な地域であるため、日常生活を支えるサービス機能、地域コミュニティの維持・増進機能の強化を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

現在の駅前ロータリー部分に整備する西口駅前広場(観光交流センター、地域交流センター)は、芦原温泉駅前のランドマークとして、また、市民や来訪者が集い、憩う賑わいの拠点となるものであり、駅前の魅力向上に寄与する。さらにイベントの参加者や北陸新幹線開業に伴い南北部の広いエリアからの駅利用者の増加が見込まれることから新たに立体駐車場を整備し、利用者の利便性を増進する。
 また、駅利用者や観光客がトランジット時間等を活用して、駅前商店街に足を運びたいように地域の魅力を発信できる機能を観光交流センター内に整備する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

都市再生土地区画整理事業や市街地再開発事業の特例を受ける場合は当該事業の概要、位置づけを記載。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅前商店街の空き店舗数	店	JR芦原温泉駅前商店街の空き店舗数	芦原温泉駅周辺における賑わい創出に不可欠な駅前商店街の空き店舗リノベーションを促進し、歩いて楽しむ空間を創出する。	5	H30	3	R5
駅周辺整備に関する満足度	%	市民アンケート調査における駅周辺整備に関する満足度	交通結節点である駅前広場等の整備により、都市機能の向上に対する住民満足度を把握する。	5	H30	55	R5
JR芦原温泉駅乗降客数	人/日	JR芦原温泉駅の乗降客数	駅周辺のアクセス道路、駅前広場を整備し、交通結節点機能の強化を図ることで、鉄道利用者の利用促進を図る。	3,600	H30	5,000	R5
駅前広場利用者数	人/年	賑わいホール及び観光案内・魅力体験施設の利用者数	駅周辺の賑わいづくりに地域の活性化を図る拠点として今後整備を行う賑わいホール(地域交流センター)と観光案内・魅力体験施設(観光交流センター)の利用を促進することで、地域コミュニティの活性化を図る。	-	-	65,000	R5

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1】JR芦原温泉駅の交通結節点、魅力情報発信の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR芦原温泉駅は、福井県の北の玄関口に位置付けられており、あわら温泉等の観光地への送迎車輛が数多く駅前広場を利用しているが、駅へ通じる幹線道路は、西側の県道1路線のみであり、市街地を連携する広域幹線道路へ通じるルートが限られているため、駅西口から温泉街へ向かう西口アクセス道路及び東口アクセス道路を整備し交通結節点機能を向上させる。 ・芦原温泉駅周辺まちづくりプラン(平成30年7月策定)で計画する賑わいホールや観光案内・魅力体感施設((仮称)賑わい空間)を核として、既存のaキューブや金津本陣にぎわい広場と一体的に、福井県の北の玄関口としてふさわしい、周辺地域を含めた広域的な魅力の情報発信拠点や交流拠点として人々が集い楽しむ空間を創出する。 ・西口アクセス道路、東口アクセス道路、西口広場、東口広場、駅西口駐車場等を整備し、利便性を向上させることにより、駅周辺施設(賑わいホール、観光案内・魅力体感施設、金津本陣にぎわい広場、aキューブ等)の利用者を増加させ、駅周辺の賑わいを創出する。 	<p>道路:(市道)105号線 道路:(市道)107号線 道路:(市道)171号線 道路:(市道)1117号線 地域生活基盤施設(西口広場) 地域生活基盤施設(東口広場) 地域生活基盤施設(駅西口駐車場) 高次都市施設(賑わいホール) 高次都市施設(観光案内・魅力体感施設) 優良建築物等整備事業(駅西口エリア活用促進事業)</p>
<p>【整備方針2】安心で安全な人にやさしい街と道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅西口駐車場の拡張整備、西口アクセス道路の無電柱化を実施し、JRやバス利用者の利便性の向上と、人にやさしく景観に配慮した歩行空間の整備を図る。 ・西口広場内の(仮称)賑わい空間を整備し、安心して憩い・遊べる場を確保すると共に、地域防災拠点施設としての整備を図る。 	<p>道路:(市道)105号線無電柱化 地域生活基盤施設(西口広場) 地域生活基盤施設(東口広場) 地域生活基盤施設(駅西口駐車場) 地域生活基盤施設(駅西口自転車駐車場)</p>
<p>【整備方針3】まちづくり活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR芦原温泉駅周辺の(仮称)賑わい空間、aキューブ、金津本陣IKOSSA、JR芦原温泉駅等に通じるルートを歴史文化街道と位置付けて整備し、地域内の観光資源や歴史文化を発信する地域として、観光客の増加及び地域のコミュニティの再構築を図る。 ・中心市街地の空洞化につながる店舗の老朽化や空き店舗の解消対策として、チャレンジショップの誘致や金津本陣飾りの常設展示スペースの創設等、地域のワークショップにて対応策を図る。 ・aキューブや金津本陣IKOSSAを利用して、チャレンジショップに対するフォローアップ研修や、若い世代の情報交換の場所とし、地域のコミュニティの充実に努める。 	<p>高次都市施設(賑わいホール) 高次都市施設(観光案内・魅力体感施設) 提案事業(まちづくり活動推進事業:住民参加によるまちづくり活動の推進) 提案事業(まちづくり活動推進事業:まちづくりPR活動) 街なみ環境整備事業(街なみ修景事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実に成果を上げるため、住民参加型のまちづくり活動の機会に地元関係区からも多く参加いただいて、事業の進め方や目標に向かっての取組内容(賑わい広場の活用やイベント等のソフト事業等)を検討することで、計画の進捗状況等を共有しながら計画を進める。</p>	

JR芦原温泉駅賑わい交流地区(福井県あわら市) 整備方針概要図

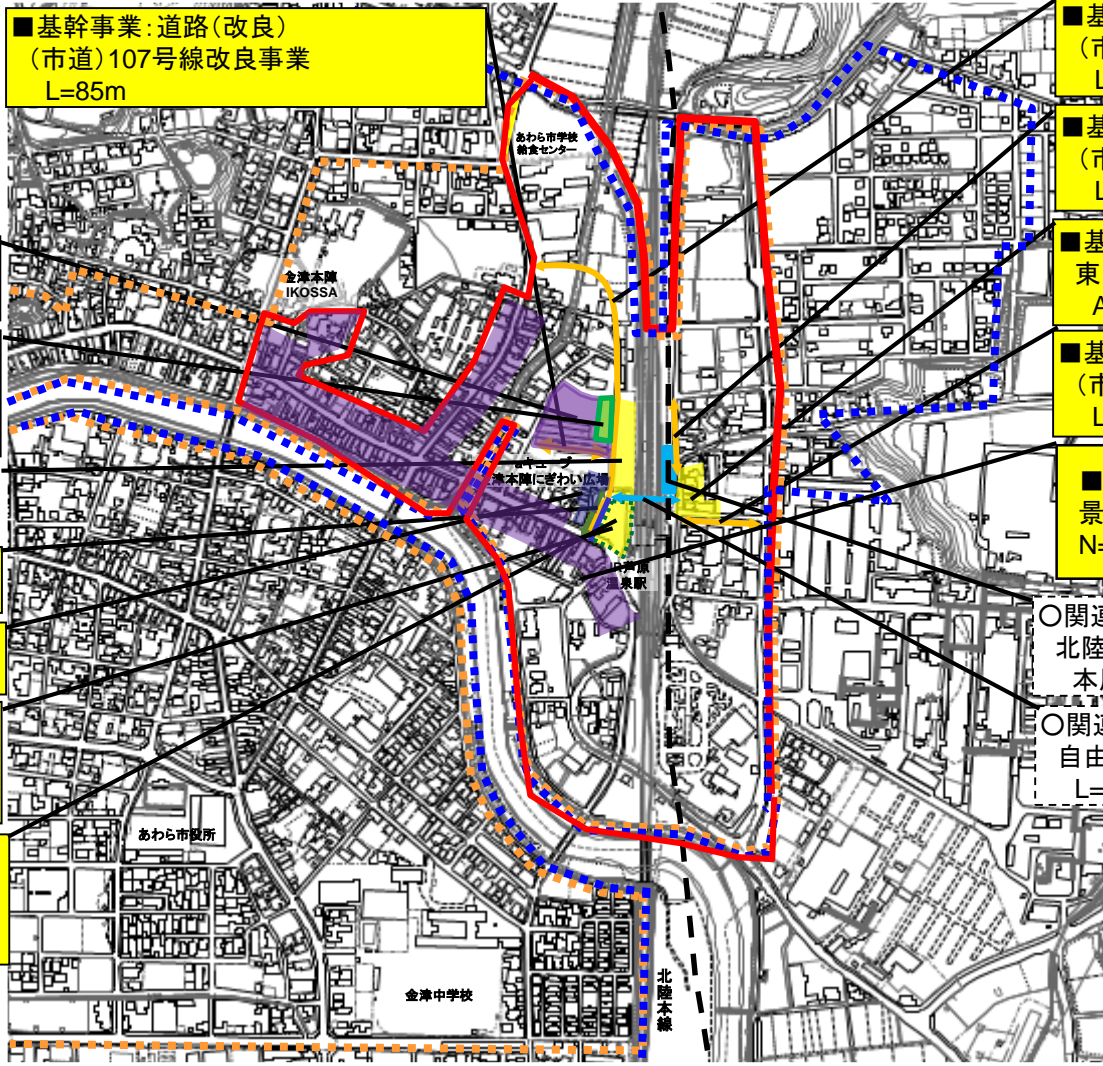
目標	大目標	北陸新幹線芦原温泉駅の現駅併設を見据え、定住環境の向上を図りながら駅周辺の活力あるまちづくりを進める。	代表的な指標	駅前商店街の空き店舗数 (店)	5	(30年度)	→	3	(5年度)
	目標1	交通結節点、魅力情報発信の機能強化		駅周辺整備に関する満足度 (%)	5	(29年度)	→	55	(5年度)
	目標2	安心して安全な人にやさしい街・道路の整備		JR芦原温泉駅乗降客数 (人/日)	3,600	(27年度)	→	5,000	(5年度)
	目標3	地域内のコミュニティ活動の促進		駅前広場利用者数(人/年)	-	(-)	→	65,000	(5年度)

- 提案事業
事業活用調査事業
(事業効果分析調査)
 - 提案事業
まちづくり活動推進事業
(ワークショップ等)
 - 基幹事業: 地域生活基盤施設(駐車場)
駅西口駐車場整備事業 A=4,679㎡
 - 基幹事業: 地域生活基盤施設(自転車駐車場)
駅西口自転車駐車場整備事業 A=241㎡
 - 基幹事業: 地域生活基盤施設(広場)
西口広場整備事業 A=3,540㎡
 - 基幹事業: 道路(電線共同溝)
(市道)105号線無電柱化事業 L=72m
 - 基幹事業: 優良建築物等整備事業
駅西口エリア活用促進事業 A=1,023㎡
 - 基幹事業: 高次都市施設(観光交流センター)
観光案内・魅力体感施設整備事業 A=474㎡ N=1棟
 - 基幹事業: 高次都市施設(地域交流センター)
賑わいホール整備事業 A=662㎡ N=1棟
- 凡 例

— 都市再生整備計画区域

0 50 100 200 300 400 500m

S=1:10,000



- 基幹事業: 道路(改良)
(市道)107号線改良事業 L=85m
- 基幹事業: 道路(改良)
(市道)105号線改良事業 L=430m
- 基幹事業: 道路(改良)
(市道)117号線改良事業 L=80m
- 基幹事業: 地域生活基盤施設(広場)
東口広場整備事業 A=2,130㎡
- 基幹事業: 道路(改良)
(市道)171号線改良事業 L=100m
- 基幹事業(街並み環境整備事業)
景観まちづくり事業 N=7件
- 関連事業
北陸新幹線芦原温泉駅舎整備事業
本屋: A=約2000㎡、上家: A=約6600㎡
- 関連事業
自由通路整備事業 L=120m

凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

北陸新幹線計画ルート